

「世界遺産」登録に向けて

— 地域の意思と努力を尊重して —



世界遺産のチェスキー・クロムノフ (チェコ)

3月中旬、中世の面影を色濃く残すチェコとドイツの町々を訪れた。チェコのプラハをはじめ、ボヘミアやオーストリアの貴族によって築かれたチェスキー・クロムロフ、川を挟んで聖職者・貴族と商人・漁民の居住地が形成されたバンベルクなど。いずれも、「世界遺産」に登録された美しい観光地であるが、独自の歴史と民俗・文化をもち、それらを大切に伝えていこうとする住民の強い意思と忍耐や努力が伝わってきた。

わが天草も、崎津集落などに代表されるキリシタン文化と歴史的景観が残り、地域古来の文化的伝統や暮らしが息づく魅力あふれる地域である。今進められている『長崎の教会群とキリスト教関連遺産』を世界遺産に登録する取り組みにあたっては、地域の暮らしや伝統・信仰を大事にしてきた人々の意思と努力を尊重し、暮らしの基盤と地域の絆がいつそう強まるよう、心がけてもらいたい。また、議員の皆さんにも世界遺産登録に向けて、力づよい後押しをお願いしたい。

(新和町 桂木誠志)

佐伊津町 クイズウォークラリーに参加して!

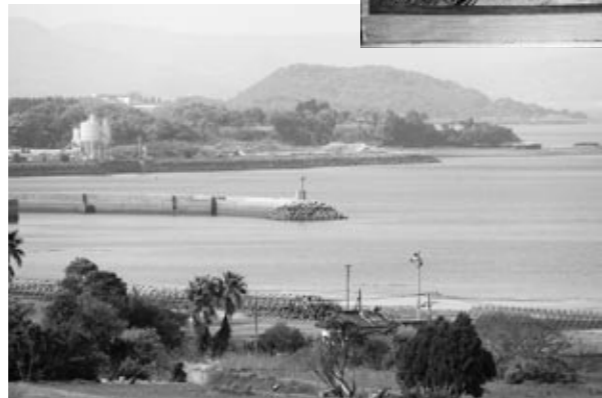
去る3月17日に開催されたウォークラリーに参加しました。佐伊津町に関するクイズなどの問題の他、隠し設定タイムをポイントとしたイベントでした。

中でも阿弥陀寺にあった地獄絵図の掛け軸は、大変古い物で初めて見せて頂き、少し怖さを感じました。また、高台から眺める佐伊津町の風景も格別で、我が町も捨てたものではないと感じました。

天草市の各町にもあらためて見てみればわが町のお宝発見があるのではないのでしょうか?天草市でもフェイスブックなどを活用して頻りに情報を流されてはどうでしょう。「日本の宝島、天草」地方の時代を作りましょう。

(佐伊津町 30代主婦)

地獄絵図の掛け軸



佐伊津町の高台からの風景

心政クラブ(大塚基生・楠本千秋・中尾友二)

《2月6～8日》千葉県流山市にて視察

●流山市汚泥再処理センター“森のまちエコセンター”

森のまちエコセンターは「し尿処理施設」と「せんてい剪定枝資源化施設」の2施設で構成されています。

「し尿処理施設」は、アタカDMシステム採用で、硝化反応と脱窒素反応を単一槽で無希釈にて行い・ばっ気装置としてDAT(ドラフトチューブエアレーター)が用いられ、高効率なかくはんとばっ気が行われ、住宅地の周辺の施設でありながら、施設周辺や施設内においても、特有な臭いが出ない臭気対策がなされていました。また、発生した汚泥をクリーンセンターで助燃剤として有効活用されていました。

「剪定枝資源化施設」はこれまで焼却していた市内の家庭や公園などから発生する剪定枝を、堆肥化・チップ化することで、みどりのリサイクルの取り組みがなされていました。



見かけも綺麗なし尿汲み取り車

福嶋啓子

《8月12日～20日》フィンランド小学校・原子力発電所にて視察

●トゥルク大学ラウマ分校附属小学校

フィンランド教育の特徴として、きょうできなかったことが明日できるようになる。自分自身の成長の比較です。他人と比較したり、競わせたりするのではないということです。また、教えられたことだけを素直に受け、何も疑問にもたない、考えない教育ではなく、自分の考えをもつように教育されています。

地元エウラキヨ自治体関係者との意見交換会がありましたが、原子力があることによって地元の予算に与える比率はかなり高いようです。自分の自治体でつくったゴミを他の自治体に押し付けるわけにはいかないと話されていました。

フィンランドは強固な岩盤のうえにできた都市で、地震もあまりないようです。そのぶん、建築物の強度は弱く震度2の地震でも建物被害がでるようです。

●オルキルト原子力発電所

原子力発電所の近くには、低・中レベル核廃棄物貯蔵施設があり、さらに核燃料廃棄物貯蔵施設(オンカロ)を長期地下貯蔵施設(地下420m)として2004年から建設しています。フィンランドでは国内のすべての核廃棄物を自国で処分することが1994年に原子力条例の修正のあと、明示されました。



エウラキヨ首長・議員との意見交換会風景

国によって、考え方も、条件も違います。でも、考え方は、教育のありかたで変えることができます。

創和会(田中 茂・池田次人・北野鋼一・松江雅輝・鎗光秀孝・船辺 修)

《7月25日～7月27日》長崎県壱岐市、対馬市にて視察

●循環型社会の推進について (壱岐市汚泥再処理センター)

し尿処理施設の整備は、合併後の最重要課題とし、旧町にあった4施設を集約化されていました。



リサイクルを推進する見地から、従来のし尿・浄化槽汚泥の処理だけでなく、施設からの処理汚泥に加え、下水道施設からの下水汚泥も受け入れ堆肥化することにより、循環型社会を推進できる施設でした。

●市民との協働のあり方・ 地域マネージャー制度について (職員をマネージャーとして地域に配置)

対馬市は本市同様歯止めがかからない地域疲弊の課題について、市民と行政が同じ目線で問題意識を共有し考え行動すべく、地域マネージャー制度を設けています。

25のブロックに職員を配置し、1ブロックにリーダー1人(次長・課長級)、サブリーダー3人(課長・課長補佐級)、さらに行政規模に応じ複数人のマネージャーを配置しています。つまり、大多数の職員がいずれかに配置され地域活動に関わっていました。